

桑名市立小中学校に関するアンケート調査  
調査結果報告書  
【概要版】

令和5年3月

桑 名 市

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本市では、子どもたちを取り巻く社会の変化や子どもたち自身の変容を踏まえ、義務教育9年間を見通した系統性・連続性のある効果的かつ魅力的な教育環境づくりのため、小中一貫教育の推進及び施設一体型小中一貫校の設置の取り組みを進めています。現在、「児童・生徒数の減少により小規模化が進む中学校区」「分散進学がない」などの理由から多度地区をモデル地区とし、4つの小学校と1つの中学校を1つの学校とする多度地区小中一貫校の整備を進めているところです。今後も児童・生徒数の減少が進む中、小中一貫教育のより一層の充実を図るため、全市的に小中学校再編についての検討を進めていくことを目的とし、本調査を実施しました。

## 2 調査対象

市民調査：無作為抽出した満16歳以上の市民3,000人  
小学5年生とその保護者調査：小学5年生とその保護者  
中学2年生とその保護者調査：中学2年生とその保護者  
教職員調査：市内公立小中学校に勤務する教職員

## 3 調査期間

令和4年11月1日～令和4年12月16日

## 4 調査方法

市民調査：郵送配付・郵送回収及びインターネット回答  
小学5年生とその保護者調査：学校配付・学校回収方式  
中学2年生とその保護者調査：学校配付・学校回収方式  
教職員調査：インターネット回答

## 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民調査	3,000 通	1,190 通	39.7%
小学5年生とその保護者調査	1,302 通	1,168 通	89.7%
中学2年生とその保護者調査	1,208 通	1,107 通	91.6%
教職員調査	806 通	763 通	94.7%

## Ⅱ アンケート調査結果からの分析・総括

### ① 小学校・中学校の規模について

桑名市全体の小学校・中学校の児童・生徒数については、市民および教職員で児童・生徒数ともに「少ないと思う」と「どちらかというと思う」と少ないと思うの割合を合わせた“少ないと思う”の割合が4～6割と高くなっています。

【桑名市全体の児童・生徒の人数をどう思うかについて（市民、教職員）】

単位：％

回答者	対象	少ないと思う	どちらかというと思う	適正だと思う	どちらかというと思う	多いと思う	わからない	無回答
市民	小学校児童数	28.5	35.1	18.0	2.8	1.5	13.0	1.1
	中学校生徒数	21.1	31.3	22.0	3.2	1.6	13.9	6.8
教職員	児童・生徒数	7.7	36.7	31.6	6.6	3.1	14.3	0.0

一方で、通っている小学校・中学校のクラスの児童・生徒数については、学校規模により回答の傾向に違いが生じているものの全体的には、「ちょうどよいと思う」の割合が高くなっています。

また、小学生・中学生の保護者と教職員における子どもが通う・自分が勤務する小学校・中学校の児童・生徒数についても、「適正だと思う」の割合が高くなっています。

【通っている学校のクラスの児童・生徒の人数をどう思うかについて（小中学生）】

単位：％

回答者	少ないと思う	どちらかというと思う	ちょうどよいと思う	どちらかというと思う	多いと思う	わからない	無回答
小学生	6.6	7.1	52.3	16.1	13.8	2.4	1.7
中学生	2.5	2.9	65.7	15.8	8.9	3.3	0.9

【子どもが通う・勤務する小学校・中学校の児童・生徒の人数をどう思うかについて

（小学生・中学生の保護者、教職員）】

単位：％

回答者	対象	少ないと思う	どちらかというと思う	適正だと思う	どちらかというと思う	多いと思う	わからない	無回答
小学生保護者	小学校児童数	18.3	19.3	40.2	7.4	11.5	1.5	1.7
中学生保護者	中学校生徒数	8.7	14.7	49.4	11.4	10.6	2.3	2.9
教職員	小学校児童数	19.3	14.6	41.6	8.2	13.8	2.5	0.0
	中学校生徒数	7.2	18.1	42.2	11.2	18.1	3.2	0.0

通っている小学校・中学校の学級数については、小中学生では「ちょうどよいと思う」の割合が最も高くなっています。

また、小学生・中学生の保護者と教職員における子どもが通う・自分が勤務する小学校・中学校の学級数については、小学生の保護者と教職員では、「少ないと思う」の割合が高くなっていますが、中学生の保護者では「適正だと思う」の割合が高くなっています。

【通っている学校の学年の学級数をどう思うかについて（小中学生）】

単位：%

回答者	少ないと思う	思うど うと どちら 少ない かとい	ち ょう ど よ い と 思 う	う う ど ち ら か と 思 い	多 い と 思 う	わ か ら な い	無 回 答
小学生	14.8	14.0	57.6	5.4	3.5	2.7	2.1
中学生	4.3	9.3	69.4	7.8	3.4	4.2	1.6

【子どもが通う・勤務する学校の学級数をどう思うかについて

（小学生・中学生の保護者、教職員）】

単位：%

回答者	対象	少ないと思う	思うど うと どちら 少ない かとい	適 正 だ と 思 う	う う ど ち ら か と 思 い	多 い と 思 う	わ か ら な い	無 回 答
小学生保護者	小学校学級数	22.5	21.2	39.8	3.9	3.8	1.6	7.2
中学生保護者	中学校学級数	12.0	14.9	51.4	6.0	5.0	2.3	8.5
教職員	小学校学級数	26.7	25.1	35.2	4.1	6.6	2.3	0.0
	中学校学級数	14.5	28.1	36.9	7.6	10.8	2.0	0.0

市民および教職員は、桑名市全体の児童・生徒数について少ないと感じていますが、実際に通っている学校の児童生徒数については小学生・中学生、その保護者および教職員は、ちょうどよい・適正であると感じており、ギャップがあることがわかります。

少子化が進み、児童・生徒数が減少している中で、市民は自分が学校に通っていた時期と比べて少ないと感じているのではないかと考えられます。一方で、小学生・中学生とその保護者は、徐々に減少している現状の児童生徒数があたりまえの状態と感じるようになってきているのではないかと考えられます。

また、学級数については“少ないと思う”の割合が、小学生とその保護者と比べ中学生とその保護者の割合が低くなっていますが、これは、中学校のすべての学年で学級数が複数あることが影響していると考えられます。

今後の小学校に望む1学級あたりの児童数については、市民、小学生とその保護者、教職員ともに、「21～29人」の割合が5～7割以上と高くなっていますが、国の基準等である「30～40人」の割合は教職員を除き3割程度となっています。

中学校に望む1学級あたりの生徒数については、市民、中学生の保護者、教職員で「21～34人」の割合が5割以上と高くなっています。一方で、中学生は国の基準等の「35～40人」の割合が約5割と高くなっていますが、同程度で「21～34人」の割合も4割以上となっています。

【あなたが望む小学校における1学級あたりの児童数（市民、小学生、小学生保護者）】

単位：%

回答者	1 ～ 10 人	11 ～ 20 人	21 ～ 29 人	30 ～ 40 人 (国の基準等)	わからない	無回答
市民	0.3	10.3	51.8	31.4	4.8	1.3
小学生	1.4	11.8	50.3	30.8	4.5	1.3
小学生保護者	0.6	10.2	58.2	24.1	2.1	4.7
教職員	0.2	24.7	72.8	1.2	1.2	0.0

【あなたが望む中学校における1学級あたりの生徒数（市民、中学生、中学生保護者）】

単位：%

回答者	1 ～ 10 人	11 ～ 20 人	21 ～ 34 人	35 ～ 40 人 (国の基準等)	わからない	無回答
市民	0.2	6.2	50.4	37.5	4.5	1.2
中学生	0.8	3.5	41.2	49.4	4.4	0.6
中学生保護者	0.3	3.2	55.3	31.3	2.3	7.8
教職員	0.8	7.6	84.7	6.4	0.4	0.0

今後の小学校に望む学級数については、市民、小学生保護者、教職員ともに国が定める標準規模である「1学年2学級」もしくは「1学年3学級」の割合が高くなっています。

また、今後の中学校に望む学級数についても、市民、中学生保護者、教職員ともに国が定める標準規模である「1学年4学級～6学級」の割合が高くなっています。

【あなたが望む小学校における学級数（市民、小学生保護者、教職員）】

単位：％

回答者	複式学級	1学年1学級	1学年2学級 (国が定める標準規模)	1学年3学級 (国が定める標準規模)	1学年4学級以上	わからない	無回答
市民	1.8	3.9	35.4	42.8	6.9	8.4	0.9
小学生保護者	0.5	4.0	31.8	47.8	9.0	4.2	2.7
教職員	0.0	0.8	53.9	38.9	1.9	4.5	0.0

【あなたが望む中学校における学級数（市民、中学生保護者、教職員）】

単位：％

回答者	複式学級	1学年1学級	1学年2学級～3学級	1学年4学級～6学級 (国が定める標準規模)	1学年7学級以上	どちらとも言えない、わからない	無回答
市民	0.8	1.1	23.6	65.1	0.8	7.6	0.8
中学生保護者	0.4	0.4	19.9	69.4	1.5	5.6	2.9
教職員	0.0	0.4	21.7	70.7	0.8	6.4	0.0

小学校・中学校の規模においては、現状の児童・生徒数は、市民は少ないと思われていますが、小中学生とその保護者、教職員は適正だと思っている割合が高いことがわかりました。また、現状の学級数は、国が定める標準規模に満たない学級数の学校が半数以上を占める中で“適正”と思っている割合が高いことがわかりました。しかし一方で、望ましい小中学校の学級数としては、小学校では「1学年2～3学級」、中学校では「1学年4～6学級」と国が定める標準規模を望む割合が高くなっていることがうかがえました。

以上のことから、全体的に児童・生徒同士の間関係に配慮した学級編成（クラス替え）ができる学級数を確保しながら、個に応じたきめ細かな指導ができる国の基準等より少ない児童・生徒数を望んでいることがうかがえます。

しかし、住まいの地域や学校の規模により、差がみられることから、それぞれの現状や今後の人口の推移等を考慮した検討を行っていく事が必要となります。

## ② 進学先の中学校について

小学校から中学校へ進学する際には、全員が同じ中学校へ進学した方がいいと思うかについて、小学生では「そう思う」と「おおむねそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が5割以上となっており、「あまり思わない」と「そう思わない」を合わせた“思わない”の割合を上回っていましたが、中学生では“そう思う”の割合が“思わない”を下回った結果となりました。

分散進学発生校に通う中学生と分散進学が発生していない中学校に通う中学生の回答割合を比較したところ、分散進学の有無による変化は見られませんでした。

また、中学生とその保護者では、“思わない”の割合が高くなっており、それ以外では“そう思う”の割合が高くなっており、それぞれの立場で考えの違いが生じていることがうかがえます。

【小学校から中学校へ進学する際には、全員が同じ中学校へ進学した方がよいか】

単位：%

回答者	そう 思う	う おお むね そ う 思 う	な あ ま り 思 わ な い	い そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
市民	17.5	31.4	31.1	14.7	4.8	0.5
小学生	26.8	25.9	22.1	14.0	8.2	3.1
小学生保護者	16.5	31.6	33.0	13.1	4.4	1.4
中学生	18.7	23.3	27.4	17.3	11.2	2.1
中学生保護者	13.6	30.7	34.2	14.2	5.7	1.6
教職員	18.5	41.0	30.0	6.8	3.7	0.0

分散進学における考え方については、通っている学校によって差はあるものの、小学生は心配や不安などを抱えながら、中学校に進学することとなり、今までの友達と一緒に同じ中学校への進学をしたいという気持ちがあることが考えられますが、中学校に入学すると、新たな友達ができるなど、小学生の時に抱えていた心配や不安などが解消されたこともあり、“そう思う”の割合が低くなったのではないかと考えられます。

今後、さらに児童数の減少が進み、分散進学の際、同じ中学校に進む児童が減少した場合、児童が抱える中学校進学への心配や不安は大きくなると考えられます。

なお、分散進学を解消するにあたっては、それぞれの学校区の地域特性を十分に把握、考慮するとともに、通学の安全性など、児童・生徒を第一に考えた検討を行っていくことが重要となります。

### ③ 学校の設備について

学校の設備や環境で問題があることとして、市民、小学生・中学生、その保護者、教職員のすべてにおいて、「学校施設や設備が老朽化していること」の割合が最も高くなっており、特に教職員では8割以上と高くなっています。

また、市民、教職員では「災害時に安全な環境ではないこと」の割合も高くなっており、災害時の避難場所にもなる学校での安全性を求める割合も高くなっています。

【地域の学校や通っている学校の設備や環境で問題があることについて

(市民、小学生・中学生の保護者、教職員)】

単位：%

回答者	学校施設や設備が老朽化していること	災害時に安全な環境ではないこと	防犯設備が充実していないこと	多様な学習活動に対応した設備が充実していないこと	子どもたちが快適に過ごせる学習環境でないこと	バリアフリー化が進んでいないこと	十分な学習スペースが確保されていないこと	特にない	その他	無回答
市民	51.3	23.6	16.6	15.8	12.3	17.2	5.0	19.7	8.2	2.1
小学生保護者	53.9	16.4	19.2	9.2	8.2	17.0	8.8	24.2	5.0	2.1
中学生保護者	56.4	17.6	12.9	11.5	9.4	15.0	7.0	24.5	4.0	2.5
教職員	81.7	35.6	37.5	39.7	34.8	42.4	38.9	2.1	5.1	—

今後、学校再編を進める際には、築年数・修繕状況などを踏まえたスケジュール等の検討を行っていくことが必要となります。

また、長島地区や川沿いにある一部の学校では、災害時の安全性を心配する割合が高いことから、災害等への対策にも配慮する必要があります。



#### ④ 小中学校の再編について

児童・生徒数の減少が推測される中、子どもたちが学びやすい学校規模にするために望ましいことについて、「現行の学校の配置が望ましいが、子どもたちのことを考えると学校の再編を進めることはやむを得ない」の割合が、市民、小学生・中学生の保護者、教職員のすべてで最も高くなっており、「早急に市全体を対象とした計画を立てて、積極的に学校再編を進めるべき」を合わせた割合が7～8割となり、「学校再編を容認・推進」と考える市民、小学生・中学生の保護者、教職員が多い結果となりました。

“学校再編を容認・推進”する理由として、「多様な友だちと接することで、協調性や社会性の成長が期待できるから」や「クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、多様な見方・考え方がうまれるから」の割合が高くなっています。

【子どもたちが学びやすい学校規模にするために望ましいことについて

(市民、小学生・中学生の保護者、教職員)】

単位：%

回答者	維持すべき	現行の学校の配置が望ましいが、子どもたちのことを考えると学校の再編を進めることはやむを得ない	早急に市全体を対象とした計画を立てて、積極的に学校再編を進めるべき	その他	無回答
市民	18.0	60.3	17.6	2.8	1.4
小学生保護者	18.5	63.4	13.0	1.9	3.2
中学生保護者	15.8	69.5	9.9	1.5	3.3
教職員	21.6	64.4	10.9	3.1	—

【“学校再編を容認・推進”の理由について

(市民、小学生・中学生の保護者、教職員)】

単位：%

回答者	多様な友だちと接することで、協調性や社会性の成長が期待できるから	お互いが高め合え、向上心のある成長が期待できるから	クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、多様な見方・考え方がうまれるから
市民	22.6	12.3	41.7
小学生保護者	24.9	12.9	39.0
中学生保護者	25.1	13.8	36.9
教職員	26.1	15.5	29.9

次ページ

【“現行の学校配置を維持すべき”の理由について】

一方で、「複式学級になったり、児童・生徒数が極端に少なくなったりしていくとしても、現行の学校配置を維持すべき」の割合は2割程度となっており、その主な理由としては、「学校は地域の中核であること」や「先生が学習や部活動を細かく指導してくれるから」の割合が高くなっています。

【“現行の学校配置を維持すべき”の理由について（市民、小学生・中学生の保護者、教職員）】

単位：%

回答者	先生が学習や部活動を細かく指導してくれるから	学年（クラス）全員で協力しやすいから	学校は地域の中核であること	ゆったりとした雰囲気の中で学習ができるから	母校がなくなるとはさみしいから	地域のよさを大切にする子どもを育ててほしいから
市民	8.9	8.9	25.2	15.9	9.8	8.9
小学生保護者	23.6	15.7	16.7	10.6	6.9	13.0
中学生保護者	22.3	14.3	20.0	9.7	6.3	14.3
教職員	16.5	8.5	25.6	18.9	1.8	15.2

また、平成28年度に実施した「学校教育のあり方に関するアンケート調査」の同趣旨の質問の結果は、市民では、「クラス替えができなくてもそのままよい」の割合が最も高く41.6%、「クラス替えができるよう統合する」の割合が39.2%となっています。また、教職員では、「統合することもやむを得ない」の割合が60.7%、「そのままよい」の割合が35.9%となっており、今回のアンケート調査結果と比較すると、市民の学校再編への考え方に変化が見られています。これは、現在進めている多度地区小中一貫校整備事業に多くの市民が関心を寄せていることが影響していると考えられます。

【平成28年度「学校教育のあり方に関するアンケート調査」結果（一部抜粋）】

○学校の統廃合等について

単位：%

回答者	そのままでもよい	クラス替えができなくてもよい	クラス替えができるよう統合する	わからない	その他	無回答
市民	41.6	39.2	17.4	1.5	0.3	

○小規模校への対応について

単位：%

回答者	そのまま	統合することもやむを得ない	その他	無回答
教職員	35.9	60.7	2.9	0.5

以上のことから、多くの市民が“学校再編を容認・推進”の考えであることがうかがえ、今後は、市内の児童・生徒数の推移や学区の特性、児童・生徒の安全性等を考慮した学校再編を検討し、推進していく方向となることが望ましいと考えられますが、“現行の学校配置を維持すべき”という考えに対する配慮や検討も行っていく事が必要であると考えられます。

## ⑤ 望ましい通学方法（距離や時間）について

望ましい通学時間、通学可能距離の許容範囲及び通学方法は小学生では、市民、小学生・中学生の保護者、教職員において「30分以内」で「2km以内」「徒歩」の割合が最も高く、中学生では、「30分以内」で「4km以内」「自転車」の割合が最も高くなっています。

【児童・生徒の通学時間の許容範囲（市民、小学生・中学生の保護者、教職員）】

単位：％

回答者	小学生						中学生					
	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内	時間は問わな	無回答	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内	時間は問わな	無回答
市民	22.4	63.8	8.9	2.8	0.9	1.2	6.3	57.6	23.9	8.4	2.4	1.3
小学生保護者	15.7	67.3	12.3	2.4	0.8	1.5						
中学生保護者							10.2	67.2	14.8	4.2	1.4	2.2
教職員	11.9	72.4	13.0	1.9	0.8	0.0	10.4	66.7	20.1	2.0	0.8	0.0

【児童・生徒の通学可能距離の許容範囲（市民、小学生・中学生の保護者、教職員）】

単位：％

回答者	小学生						中学生					
	1km以内	2km以内	3km以内	4km以内	距離は問わな	無回答	2km以内	4km以内	6km以内	8km以内	距離は問わな	無回答
市民	22.4	63.8	8.9	2.8	0.9	1.2	6.3	57.6	23.9	8.4	2.4	1.3
小学生保護者	15.7	67.3	12.3	2.4	0.8	1.5						
中学生保護者							21.2	44.7	19.8	3.2	8.0	3.1
教職員	8.8	50.0	25.5	9.1	6.6	0.0	15.3	41.0	30.5	5.2	8.0	0.0

【児童・生徒の通学方法（市民、小学生・中学生の保護者、教職員）】

単位：％

回答者	小学生					中学生					
	徒歩	スクールバス	公共交通機関	その他	無回答	徒歩	自転車	スクールバス	公共交通機関	その他	無回答
市民	83.3	12.8	0.7	2.2	1.1	30.6	55.7	7.9	2.0	1.9	1.8
小学生保護者	71.2	21.9	0.8	3.0	3.1						
中学生保護者						37.0	39.7	16.9	0.6	2.4	3.3
教職員	87.2	9.9	0.4	2.5	0.0	36.1	53.4	4.8	0.4	5.2	0.0

学校を再編する際に配慮する事項として、「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」の割合が高くなっていたこともあり、上記の許容範囲等を考慮した検討が必要となります。

桑名市立小中学校に関するアンケート調査  
調査結果報告書  
【概要版】

令和5年3月